

**【目標指標①】医療施設徒歩圏人口カバー率に関する補足
施策①「防ぐ仕組みづくり」に関する目標指標の設定について**

※医療施設の徒歩圏カバー率：病院または診療所（内科又は外科を含む）から半径800mの圏域内人口を市内総人口で除して算出

■前提条件（相関について）

医療施設徒歩圏カバー率と一人当たり老人福祉費の関係性については、「近畿コンパクトシティガイドランスー交通編」66ページにて示されています。

- 一人当たり老人福祉費と医療施設徒歩圏カバー率との関係については、負の相関がみられています。
つまり、医療施設徒歩圏カバー率が高い都市は、一人当たり老人福祉費が低い傾向にあります。
- 特に、医療施設徒歩圏カバー率が90%以上の都市では、一人当たり老人福祉費が概ね3万円未満である一方、80%未満の都市では、概ね3万円以上となっています。

・相関係数 [-0.62]

(※参考)

[0.7~1.0] 強い正の相関あり [0.4~0.7] 正の相関あり
[-0.7~-0.4] 負の相関あり [-1.0~-0.7] 強い負の相関あり

**【目標指標②】外出率に関する補足
施策②「集まる仕組みづくり」に関する目標指標の設定について**

※外出率：各都市の総人口のうち、1日に1回以上外出した人の割合

■前提条件（相関について）

外出率と一人当たり老人福祉費の関係性については、「近畿コンパクトシティガイドランスー交通編」62ページに示されています。

- 一人当たり老人福祉費と外出率との関係については、強い負の相関がみられています。
つまり、外出率が高い都市は、一人当たり老人福祉費が低い傾向にあります。
- 特に、外出率が80%以上の都市では、一人当たり老人福祉費が概ね3万円未満である一方、75%未満の都市では、概ね3万円以上となっています。

・相関係数 [-0.78]

■滋賀県湖南医療圏における医療施設徒歩圏カバー率及び外出率と一人当たり老人福祉費の関係性

医療施設徒歩圏カバー率…ここでは市内全域対象に算出されたカバー率ですので、計画の目標値とは差異があります。

- 課題～施策～目標において、医療・福祉と大きく関連しますので、湖南医療圏でデータを整理します。
- 湖南医療圏では、医療施設徒歩圏カバー率は草津市、守山市が90%以上と高く、野洲市が最低となっています。
- 湖南医療圏では、外出率は各市町80%以上と高く、一人当たり老人福祉費も3万円以下と低く抑えられている地域であることが下記表より読み取ることができます。
- 湖南医療圏では、医療施設徒歩圏カバー率の野洲市以外の平均値においては**91.3%**です。また、外出率については**85.0%**で、**一人当たり老人福祉費の平均値は16.5千円/人**となっています。
- 医療施設徒歩圏カバー率及び外出率が高いと一人あたり老人福祉費負担額が低くなる傾向が下記表より確認できます。市では、他市平均の数値を目標とすることで、**野洲市の老人福祉費の抑制を図っていきたいと考えています。**

	H22国勢調査 人口	医療施設徒歩 圏カバー率	外出率(%)	一人当たり老人福祉費 (千円/人)	各市町の老人福祉費合計(千 円) =一人当たり老人福祉費× H22国勢調査人口
草津市	130,874	95.5	85.3	16.8	2,198,683
守山市	76,560	91.7	84.1	16.8	1,286,208
栗東市	63,655	86.7	85.5	15.5	986,653
湖南医療圏 他市町計及び平均	271,089	91.3	85.0	16.5	4,471,544
野洲市	49,955	83.6	83.3	19.6	979,118

参照：近畿圏パーソナル調査（平成22年）、近畿コンパクトシティガイドランス交通編（平成28年3月）

**【目標指標③】交通手段の分担率に関する補足
 施策③「歩く仕組みづくり」に関する目標指標の設定について**

※交通手段のうち「バス・自転車・徒歩」の割合＝パーソントリップ調査での交通手段分担率で、バス・自転車・徒歩の割合の合計

■滋賀県湖南医療圏における交通手段分担率（バス・自転車・徒歩を抜粋）

- 課題～施策～目標において、医療・福祉と大きく関連しますので、目標①②と同じく湖南医療圏でデータを整理します。
- パーソントリップ調査では、出勤・登校・自由・業務・帰宅・全目的の種別で調査結果が示されており、こちらでは「全目的（総計）」の数値を引用しています。
- 湖南医療圏での、野洲市のバスの分担率が高く、平均値の2倍以上となっています。
- 自転車・徒歩の分担率は、野洲市が最低となっています。
- 結果として、バス・自転車・徒歩の合計でも、野洲市が最低数値となっています。
- 逆に自動車の分担率は野洲市が高く、交通手段での自動車依存が高い傾向が顕著に伺えます。
- この計画では、「公共交通を利用することによって、自然と歩くことが取り入れられるまち」の目標値として、バス・自転車・徒歩の計を現状値から、湖南医療圏他市平均へ向上を図っていきます。

	交通手段分担率（％）				
	バス	自転車	徒歩	バス・自転車・徒歩の計	自動車【参考】
草津市	1.8	17.9	14.3	34.0	48.0
守山市	0.7	19.0	14.9	34.6	54.5
栗東市	0.7	18.0	16.8	35.5	54.7
湖南医療圏 他市平均	1.1	18.3	15.3	34.7	52.4
野洲市	2.3	12.2	14.1	28.6	59.5

参照：近畿圏パーソントリップ調査（平成22年）、近畿コンパクトシティガイダンス交通編（平成28年3月）